

100%電力に転換するなど地道な取り組みを重ね、アスファルト混合物製造に伴うCO₂排出量を50%削減可能な低炭素合材の販売も行っている。

今後も合材製造・販売のリーディングカンパニーとして、舗装のCNに向けたCO₂削減対策を強化していく。

低炭素合材で攻勢

全工場に製造温度低減装置

前田道路

前田道路は低炭素合材の製造・販売を一層推進する。アスファルト混合物の製造時に少量の水を添加し、混

合物の製造温度を最大30度低減するフォームドアスファルト装置をすべての合材工場へ順次導入。稼働電力の再生可能エネルギー化などで環境負荷の少ない合材の販売も強化する。

同社は2013年度比で30年度に二酸化炭素(CO₂)排出量を50%削減し、50年度にカーボンニュートラル(CN)を目指している。合材工場へのフォームドアスファルト装置(LEAB装置)の設置、運用を11年に開始。3月までに半数以上の44工場で設置を終えた。

東京都内や近郊から東京都向けに出荷する9カ所の全合材工場に装置を設置し、東京都が発表した「低炭素アスファルト」仕様の先行導入に対応できる体制

を整えている。近畿地区では3工場に設置済みで、本年度内に3工場へ追加設置する予定だ。

同社は製造燃料を重油からCO₂排出原単位の少ない都市ガスやバイオマス由来のバイオ重油へ順次変更。稼働電力を再生エネ率

